

教会の奥義

2023年8月6日

エペソ人への手紙 3章1～6節

序：(1)教会はキリストのからだ 1・22～23 cf. コリントI 12章
かしら：キリスト 聖徒：器官（細胞）

(2)教会は建物（神の宮、神殿）

要の石（礎石）：キリスト・イエス
土台：使徒たちや預言者たち（新約の）
石：聖徒たち

(3)教会はペンテコステ～空中携挙まで 地上の教会（見える）
天上の教会（見えない）永遠

(4)罪人の救い・教会の建設は三位一体の神の御業

① 選び + 恵み + 信仰 = 救い
御父 御子 御霊

② キリストにあって築き上げられ、御霊によって、神の御住まいとなる
2・22

(5)教会はユダヤ人聖徒と異邦人聖徒の融合一体

① ユダヤ人が先 異邦人が後 ユダヤ人 < 異邦人 ⇒ 選民救済

② 二つの敵対するものを一つのからだにしたのはキリスト（十字架）
2・14～16

I. 使徒パウロの使徒性の真正 （1～4節）

(1)異邦人のため

(2)囚人（キリストに捉えられ、キリストに繋がれた） 誇り、光榮
（カイサリアで2年、護送され。今はローマの獄中） 皇帝の囚人

(3)私に与えられた神の恵みの務め（召命）
使徒職、それも異邦人への使徒

(4)奥義が私に知らされた

★自分勝手に使徒に成り上がったのではなく、神による召し（救いと務め）

救い：迫害者 ⇒ 宣教者

務め：ユダヤ教のエリート ⇒ イエス・キリストの福音に仕える

★3年もの年月をかけて開拓したエペソ教会に対してさえ使徒性を言及したのは
疑いを抱いたり、否定・敵対する者たちがいたから

II. 啓示によって知らされた奥義 3～5 節

奥義 : 神が啓示してくださらない限り、人間が知り得なかったこと

- 例 (1)マタイ 13・11 天の御国 旧約では隠されていた
(2)コリント I 15・51～52 聖徒たちの体の復活
(3)コロサイ 2・2 神の奥義 = キリスト

今（新約の時代）は知らされているが、前（旧約の時代）は知らされていなかった
異邦人の救い（キリストの大宣教命令）／部分的に語られただけ
広く知られている
御霊によって啓示された（使徒たちと預言者たち）

III. 教会の奥義 6 節

(1)異邦人信者もユダヤ人信者も天的富の共同相続人（キリストとともに）

(2)ともに同じからだに連なる（いのちある共同体） 喜怒哀楽をともしする

(3)ともに約束にあずかる

信仰義認

聖霊内住

神との交わり

その他すべての恩恵（礼拝、祈り、みことば、聖徒の交わり）

3 回「ともに」 神の家族

この大変革は、福音によって実現（BEFORE と AFTER）

その福音を宣教し、キリストの教会を建て上げる使命と光栄を自覚、邁進

IV. 適用

ともに聖なる公同の教会（真の天上の教会）に属する聖徒たちであり

普段は地上のそれぞれの教会で信仰生活をしている私たち

イエス・キリストの福音によって、新しい者とされ、主の弟子とされ、教会の一部となった

今朝は聖餐（主が私たちを招いてくださる食卓）、午後は愛餐（私たちが主をお招きする食卓）の両方を通して、主の贖いとそれによってもたらされた大いなる恵み、祝福を味わい、主に感謝と賛美をささげましょう